

平成21年度八重山群島病害虫発生予報第11号(2月予報)

2月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	60	40	20
平年並	30	40	40
低い(少ない)	10	20	40

(平成22年1月22日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平均値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	18.6	21.1	16.4	122.5	76.3

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

2月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

春植えにおけるメイチュウ類の防除対策

- 1月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップ調査による、トラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.1頭(前年2.7頭、平年2.5頭)と平年よりやや少なかった。
- 植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を重点におく。

収穫後圃場におけるカンシャコバナネナガカメムシの防除対策

- 収穫の際に地上に落下した卵や越冬成虫は地表や株元に残存し、収穫後の株から伸びた幼茎などで生育する。
- 収穫後は圃場管理を兼ね、速やかに耕耘(ロータリー、砕土)し、成虫の発生源となる古株を除去する。
- 全面および畝間の耕耘は、卵の死亡率を高めることから、第1世代の発生を軽減できる有効な手段である。

2 マンゴー

出蕾・開花期における病害虫防除対策

- 炭疽病の発病葉率は18.4%(前々月1.2%、前月0%)であった。炭疽病に罹病した葉は速やかに施設外へ持ち出し処分、防除を徹底する。
- 開花期以降、チャノキイロアザミウマやハナアザミウマ類が徐々に増加することから、初期防除を徹底し、混合花の新葉や不要な新梢は本種の発生源になることから除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

3 かぼちゃ

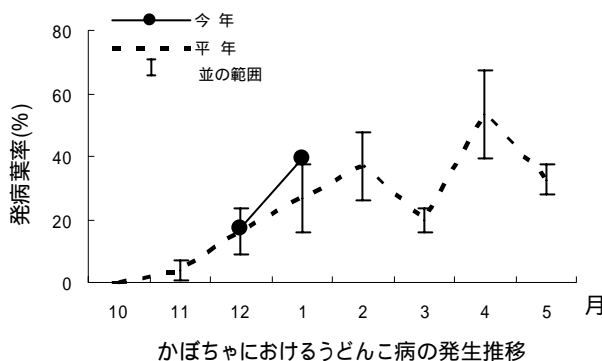
(1) うどんこ病

発生程度 : やや多

予報の根拠

a 1月下旬の調査の結果、発病葉率は39.4%(前年72.3%、平年26.8%)と平年よりやや高かった。

b 気象予報によると、向こう1か月の降水量は高い確率が40%、日照時間は少ない確率が40%の見込みで、本病の発生が助長されやすい。



< 防除上注意すべき事項 >

a 着果前後に不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。

b 発生が確認されたら防除を徹底する。

4 さやいんげん(施設)

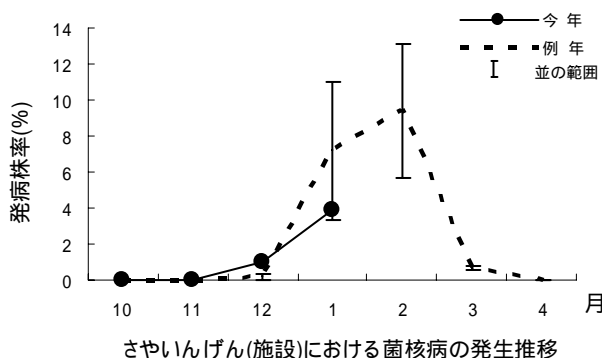
(1) 菌核病

発生程度 : 並

予報の根拠

a 1月中旬の調査の結果、発病株率は3.9%(前年14.2%、平年7.2%)と平年並であった。

b 気象予報によると、向こう1か月の降水量は高い確率が40%、日照時間は少ない確率が40%の見込みで、本病の発生が助長されやすい。



< 防除上注意すべき事項 >

a 発病部位は、菌核が形成される前に除去し、ビニール袋に入れるなどして施設外へ持ち出し処分する。

b 予防散布を行い、発生が確認されたら防除を徹底する。

